

昨年度の総会報告

平成二十年年度の総会は、八月九日(土)午後五時より、一宮スポーツ文化センターで行われました。

三回生・二十三回生を中心として、総勢百十名の方々に参加していただきました。また、ご多忙にもかかわらず、歴代の校長先生をはじめ、懐かしい旧正副担任の先生方、現職員の先生方にもご出席いただきました。

総会では、平成十九年度の事業報告・会計報告、役員改選、平成二十年年度の事業計画・予算案の審議、同窓会費納入に伴う会則改正案の審議と、滞りなく議事を進めることができました。総会でもご報告させていただきましたように、同窓会費及び同窓会報郵送料カンパでは多くの方に協力いただき、重ねてお礼申し上げます。

懇親会は、学年同窓会を担当した三回生・二十三回生に新会員の四十二回生を加え、若々しい雰囲気の中で盛り上がりしました。各テーブルでは、昔話に花が咲き、時が経つのも忘れて旧交を温めることができました。懇親会を締めくくる校歌斉唱も恒例になり、名残りが尽きないままお開きとなりました。

予定では、本年も学年同窓会の担当学年を二学年とし、同窓会総会をより活性化しようと計画しておりましたが、残念ながら二十四回生のみ開催とさせていただきます。ご了承下さい。なお、担当学年にかかわらず、クラス会や部活動のOB会の場合としても同窓会総会を大いに活用していただけたら幸いと考えております。

今年度の総会に、是非皆様お誘い合わせの上、気軽に参加して

ただきますようお願い申し上げます。

東京支部会の報告

38回生 大津 英紀

平成二十年十一月十五日(土)に、一宮西高校同窓会東京支部会が例年通り新宿にて行われました。母校からお越しいただいた松岡先生、入野先生を含め、総勢で三十二名の方々に参加していただきました。今回は初参加の方が多く、緊張感に満ちた雰囲気になると思っていたのですが、その雰囲気も最初だけで、一つの家族のようににぎやかな同窓会となりました。



た。

私はまだ四度目の参加で、幹事として足りない面もあったと思います。しかし、皆様が主体的に参加してくださり、時に私に声をかけ、サポートしてくださったお陰で無事に同窓会の進行を行うことができました。手伝ってくださった皆様、本当にありがとうございました。今回も先輩方から様々なお話を伺うことができ、私自身とても有意義な時間を過ごすことができました。その話の中で、西高同窓会東京支部発足のいきさつが印象に残ったので、それについて簡潔に述べたいと思います。

当時、関東の大学を受験する場合、慣れない土地で宿泊場所を確保することは大変でした。そのた

め、関東在住の卒業生が、大学を案内したり宿泊地を提供したりすることによって、少しでも受験の環境を良くすることを目的に西高同窓会東京支部が始まったそうです。(昭和44年)

私は先輩方からこの話を聞いた時、西高という絆でつながる在校生に對して、受験に没頭できるようにご尽力される先輩方の厚意に大変感銘を受けました。また、立派な先輩方がいる西高が母校であることに誇りを持つことができました。

社会インフラが整っている現在においては、必要の無いことかも知れませんが、西高出身者や在校生同士が、世代を超えて助け合う姿勢をもち続けていくことがどれ程大切なのかを再認識しました。同時に、何でも一人でできてしまう現在だからこそ、素晴らしい先輩や後輩として同期の存在に触れる場は必要であり、その場の一つに同窓会があると思えました。東京同窓会は年に一度しかありませんが、関東圏にいらつしやる方には是非とも参加していただき、西高の輪を広げていただけたらと思います。

最後になりましたが、時間を割いて参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします。



転任の先生からのメッセージ

生きがいを感じた職場でした

水谷 陽治

西高には、平成12年に赴任して21年の3月まで9年間お世話になりました。卒業生のような複雑な気持ちで、西高をあとにします。惜別の感慨もひとしおです。多くの先生方やPTAの皆さんに支えられてなんとか無事に勤めることができました。

9年の中で、学習指導がきめ細かくなつていきました。47分7限授業が始まり、早朝、業後にも補習が計画されました。生徒達は積極的に取り組み、特に3年生は補習後の自習室、進路室前での夜7時までの居残り学習と本当によく勉強しました。また先生方が、夜遅くまで机に山積みになったノートやプリントを一つ一つ丁寧に添削している姿が思い出されます。こうした西高の3年間で、生徒達が一回りも二回りも成長していったと思えます。これは、西高の一つの伝統であり、文化だと思います。

クラス担任、硬式テニスの顧問、生徒指導、進路指導など授業以外にも、いろいろ勤めてきました。ですから生徒達と膝を交えて話す機会も多くなりました。思い出はたくさんあります。センター試験の当日、朝5時に起きて、会場に「燃えて栄光」の横断幕を掛けにいったこと。生徒一人一人に、激励の「合格飴」を配り、握手をして会場に送り出したときの生徒の顔。合格発表の日、大学へ出向き受験番号を確認するのに手が震えていたこと。今でも鮮明に浮かび上がってきます。多くの感